

可部循環線による病院へのアクセス及び生活交通の充実

可部循環線利用促進共創プラットフォーム

事業の基礎情報

実施主体	広島市
事業実施地域	広島市
共創の類型	官民共創・他分野共創
他分野共創の類型	医療・介護・福祉、商業・農業、地域・移住、教育・スポーツ
共創パートナー	広島市、広島交通(株)、北部医療センター安佐市民病院
運行形態	①路線バス ②道路運送法第4条許可
運行主体	広島交通(株)

現状・課題

(地域交通の現状・課題に関する分析)

北部医療センター安佐市民病院（以下「安佐市民病院」という。）へのアクセス及び可部地区の住民の生活交通の確保のために、令和4年5月に可部循環線の運行を開始した。しかし、当該路線は安佐市民病院が起終点となっており、安佐市民病院を跨いで利用する場合、一度運賃を支払い降車し、再度安佐市民病院から運賃を支払い乗車する必要があるため利用しにくいといった声やバス停にベンチがなく待合環境が不十分といった声、当該路線の周知が十分ではないといった声が地域からある。こうした状況の中、利用者数は低迷しており（平日1便当たり利用者数約2.8人）、路線の維持が危ぶまれる状況になっている。また、安佐市民病院は車で来院者が多く、利用が過密となる時間帯には駐車場が混雑し、来院者の円滑な病院利用の妨げになっている。

こうしたことから、当該路線の維持や病院の駐車場の混雑緩和等のため、当該路線の利用促進策を実施するものである。

地域公共交通計画への位置づけ
(位置づけ予定を含む)

有

運輸局・運輸支局への事前相談

無

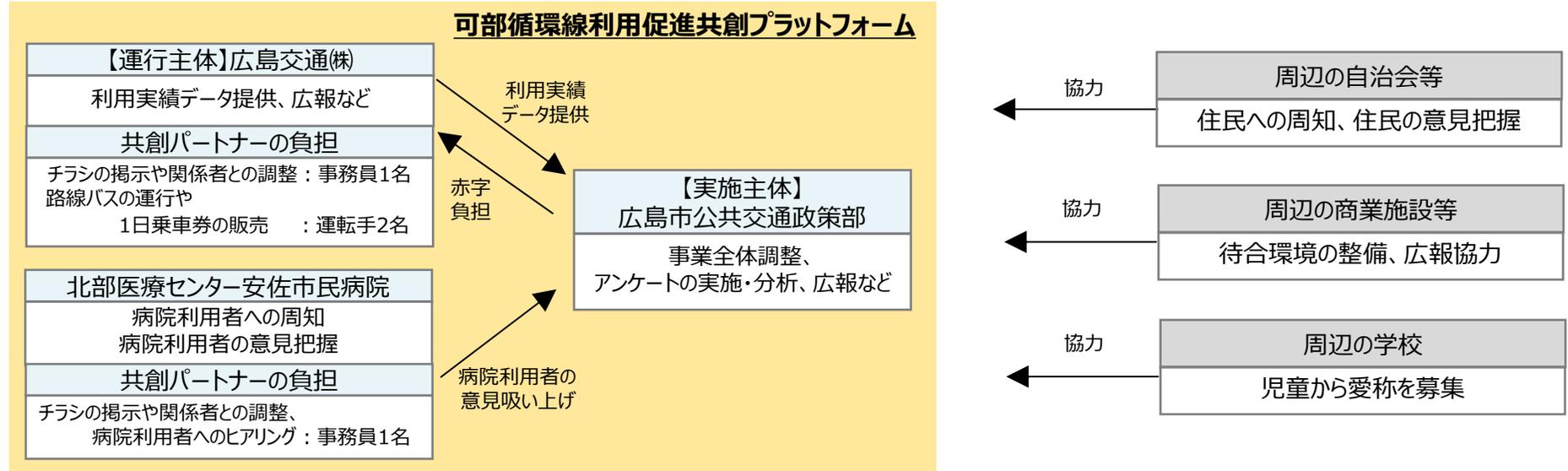
令和5年度共創モデル実証プロジェクトの補助有無

無

可部循環線による病院へのアクセス及び生活交通の充実

可部循環線利用促進共創プラットフォーム

事業の全体像・共創の仕組み



取組の概要

(事業の概要)

交通事業者及び安佐市民病院と連携し、1日のうちに何度乗車しても同一料金となる1日乗車券の販売を実施することで、安佐市民病院を跨いで利用しても同一料金とするとともに、周辺の商業施設等と連携し、利用しやすい待合環境の整備を行うなど、利用者の利便性の向上を図る。

また、地域及び周辺の学校と連携して小学生から当該路線の愛称を募集し、地域の生活交通としての周知を図る。

(地域の関係者との連携・協働)

安佐市民病院へのアクセスの目的を有する可部循環線の維持に向けて、主な乗降場所である安佐市民病院が参画することにより、病院利用者の意見や需要を的確に把握し、事業を実施することができる。また、周辺自治会や商業施設、学校など、地域の様々な団体を巻き込んで利用促進策を実施することで、地域に親しみのある生活交通として効果的に周知を図ることができ、今後の更なる利用促進策の検討等に向けて、持続的に取り組んでいくことが可能となる。

(地域公共交通ネットワークや既存交通との関係性)

当該路線は、沿線地域の病院へのアクセス及び生活交通として利用されていることに加え、広島市北部の各地域から広島市都心部に乗り入れるバス路線との乗継利用による安佐市民病院までのアクセスとしての役割を有している。当該路線の利用促進策の実施により、そうした乗継利用の利便性も向上するため、他の既存交通にとっても有益な影響を及ぼすことが期待される。

可部循環線による病院へのアクセス及び生活交通の充実

応募様式A

可部循環線利用促進共創プラットフォーム

事業実施手順・スケジュール

	2024年 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年 1月	2月	3月
広島市	●応募	●採択	●交付申請	●交付決定	広報 チラシ・乗車券作成	1日乗車券の実施・アンケートの実施			利用状況・アンケートの分析 ●実績報告	
広島交通(株)					広報 乗車券作成	1日乗車券の実施・アンケートの実施				
北部医療センター 安佐市民病院					広報				病院利用者の意見把握	
周辺の自治会等					広報				住民の意見把握	
周辺の商業施設 等					広報	待合環境の改善				
周辺の学校						愛称募集				●愛称決定

可部循環線による病院へのアクセス及び生活交通の充実

可部循環線利用促進共創プラットフォーム

取組の詳細

(地域交通にもたらされると想定される効果)

- ・1日乗車券の販売や待合環境の整備により、自宅等から目的地まで片道しかバスを利用していなかった利用者（約1,100人/月）が往復で利用し、バスの利用回数が増加することで、住民のバス利用が定着することが期待されるほか、新規利用者の増加や移動需要の喚起にもつながる。
- ・当該路線の愛称を募集することで、当該路線の周知が図られるとともに、地域の生活交通として親しまれていくことが期待される。
- ・安佐市民病院の来院者へのアンケートやヒアリング等により、今後の利用需要に即した的確な利用促進策の検討につながる。

(地域全体に及ぶと想定される効果)

- ・移動需要の喚起に伴う地域活動・消費活動の活発化が期待される。
- ・安佐市民病院にバスで来院する利用者が増えることで、病院の駐車場の混雑緩和に寄与する。

※特に以下の効果が想定される場合は、その項目に○をつけ（複数選択可）、当該内容について上記に具体的に記載してください。

新たな移動手段の創出や各種送迎への地域住民の混乗などによる、地域住民の利便性向上		貨客混載や各種送迎の公共交通への集約など、交通事業者や地域の関係者の生産性向上
乗降データを取得する等、データを活用して、事業検証ができる環境整備	○	通院者や商業施設の利用者に関する情報など、他分野の移動需要に関するデータの利活用

(補助事業実施後の予定)

この度の実証実験の結果を踏まえ、1日乗車券の継続的な実施を検討するとともに、紙の乗車券ではなく、ICカード等においても同様のサービスが実施できるようなシステムの構築についても検討していく。

今後、利用者の意見を踏まえつつ、周辺の商業施設と連携した運賃施策など、更なる利用促進策を実施し、路線の維持を図っていく。

資金面	補助事業実施後、更なる利用促進策の実施に当たっては、広島市の負担に加え、周辺商業施設等からの協力についても検討・調整する。
人材面（運転手の確保）	交通事業者による積極的な採用情報の周知など、引き続き運転手の確保に努める。